

平成23年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	有限会社 真全		
事業所名	グループホーム まっとう		
所在地	(〒226 0026 神奈川県横浜市緑区長津田町2365番地)		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年10月13日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症介護のプロとしての知識・技術を身につける為に、バリデーションというケアの方法の勉強に、事業所をあげての取り組みを行っています。認知症高齢者の気持ちを理解し、信頼関係を築くにあたって、非常に有効な方法です。バリデーション協会のセミナー、横浜市の研修会等の外部研修及び内部研修・勉強会等により介護者のレベルアップを図っています。施設は、長津田駅から徒歩圏ですが、緑に囲まれて見晴らしと日当たりの良い、木の温もりが暖かい山の別荘といった雰囲気です。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月17日	評価機関 評価決定日	平成24年2月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR横浜線と東急田園都市線の長津田駅から徒歩10分ほどで線路に沿って緩やかな坂道を上ったところにある。周囲には緑が多く、高台に位置しているので景色も良く、恵まれた環境である。建物は木造2階建てで建物内はバリアフリーで天井も高く、空間にゆとりのある開放感にあふれた造りとなっている。駅からも近く、買い物や交通の利便性が良い。すぐ近くに長津田地区センターや公園があり、利用者の憩いの場として活用されている。</p> <p><b>【チームケアへの取り組み】</b> 介護計画作成のプロセスで書式の変更と共に運営も改善され、モニタリングを毎月行い、評価をしている。居室担当職員が日常の観察やかかわりの中で気づいたことを記録し、職員間で情報を共有することで、介護計画の作成に活かしている。</p> <p><b>【日常的な外出支援】</b> 東急田園都市線つくし野駅へも徒歩圏内であり、事業所の前から、散策によい小道が駅の方まで続いている。駅前の店に買い物に行ったり、利用者の希望するレストランへ外出にも出かけている。また、長津田地区センターの図書館を利用するなど、日常的な外出の機会を増やしている。</p>
--

### 地域密着型サービスの外部評価項目

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームまっとう
ユニット名	Aユニット

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼（朝の申し送り）の際、理念の唱和をし共有化を図っている。又、フロア会議や全体会議を通じて、理念の意義を確認し合い、その理念に基づき実践し、努力している。	開所時からの理念「共に自然体（まっとう）に生きる」を基本に4つの方針を決め、玄関や事務室に掲示し朝礼で唱和している。新人研修で必ず理念及び職員心得を教育している。職員はフロア会議や全体会議でも理念について話し、普段から意識し、実践を心がける機会になっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、ホームで行う行事に地域の方々を招待、ご近所の方々との散歩の途中の挨拶、ボランティアの方々と利用者との交流など日常的に行っている。	自治会に加入しているので、回覧板が回ってきたり、自治会の防災訓練に事業部長が出席したりしている。ボランティアが中心となり、花壇や農園の手入れをし、野菜の収穫を楽しんでいる。「つたのは学園」の生徒が楽器演奏を聞かせに来所するなど、地域との交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして現在、認知症介護に対する理解やコミュニケーションの方法等を地域に向けて発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営報告や活動報告を3ヶ月に1回行い、状況をお知らせすると共に、意見交換を行い、積極的にサービス向上に役立っている。	運営推進会議は、家族代表、自治会関係者、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加で3ヵ月ごとに年4回開催している。運営や活動に関する報告をしたうえで意見交換も行っている。外部評価の結果も資料を添えて報告し、質問に答えることで意見が出やすいようにしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の入居者の担当者へホームの実情の報告、相談を行い、密に連絡を取り合っている。	緑区と青葉区合同のグループホーム連絡会で市職員と意見交換をしている。身内のいない方の金銭管理や生活保護の方を担当している市職員とは連絡を取っている。運営推進会議の報告書を緑区役所の担当課に提出しており、連携を深める様に心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアー会議や全体会議を通じて施錠、ベッド柵等、身体拘束についての話をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ず玄関の施錠だけは行っている。	嫌がることは強制しない方針で「身体拘束ゼロの手引き」をマニュアルにしている。事業所としての運営規定の明記はない。やむをえず身体拘束をする時は、家族の同意を得ている。現在2階入口と玄関は施錠しているが、今後、施錠について職員で話し合う予定となっている。	身体拘束排除の研修を実施し、事業所としての取り組み姿勢を運営規定等に明記するとともに、2階入口や玄関の施錠の解除を含めた検討を進めることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、全体会議・フロアー会議などを通じて研修参加者からの報告や、学習会を開くなどして、防止の徹底を図っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己決定出来なくなった認知高齢者の、守られるべき権利について理解しているが、制度として職員がもっと詳しく知る必要が有る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改訂時には、個別のご家族と充分話し合い、理解、納得が得られるよう意識を持って対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会議は勿論、ご家族がお見えになられた際の話や要望、意見を職員は必ず管理者に伝え、サービス向上に反映させている。	家族会を年2回開き、要望や意見を聞いている。モニタリングは毎月行い、家族の来所時にも話をする機会をつくり、サービスの提供に活かしている。運営推進会議にも家族代表が参加して意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロアー会議、個人面談等で意見提案の機会を設け、職場改善に反映させている。	意見があれば「申し送りノート」に記入し、フロア会議で取り上げている。フロア会議や全体会議での職員提案を取り入れ、衛生管理のためオシボリ滅菌の器械や紙オシボリの保温機を購入した事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に労働基準法の遵守を表明、個々の職員にはサービス残業等がないようにすると共に、助成金を活用して士気の向上に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・主任から各職員のケアの実際と力量の報告を受け、定期的に施設の巡回を行い確認すると共に、横浜市主催の研修・パリエーション協会主催研修等内外の研修を積極的に行う。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	緑区・青葉区のグループホーム協議会に定期的に管理者・職員を参加させると共に、職員同士に交換研修を行っている。		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやカンファレンスなどで情報の共有化を図り、慣れない環境の中での不安な気持ちを理解し、話を良く聴き、信頼関係を築く事でホームの暮らしが安心になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談の機会を多く持ち、困りごとや要望を良く聞く様にし信頼関係が築かれる様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今何が必要なのか、ご家族の望みは何なのか、医療との連携や他の社会資源の活用も含めて対応出来るよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」という理念の下、人生の先輩として敬い、支え合って暮らしていく関係作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を大切にしながら、本人の残された人生が充実したものになる様、ご家族とホームがより良い協力関係を築けるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人が訪ねて来たり、お墓参りに行ったりする習慣を維持出来る様支援している。	知人や親戚が来訪することがある。その際にはお茶を出すなどゆっくりと居心地よく過ごせるように配慮している。入居前からのかかりつけ医や美容院を利用している方もいる。電話や年賀状の交換など馴染みの関係を継続できるよう支援している。	年々なじみの人や場との関係継続は困難になると思われませんが、職員は情報を共有し、今後も、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れぬように、支援を続けられることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しつつ、一人ひとりが疎外感を持ったり、孤立する事が無い様職員が中に入るなど、対応の工夫をしながら、利用者同士の関わりでの支援を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話相談を受けたり、退去した方のご家族との関係性も大切にしている。		
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望を引き出せるよう努めているが、困難な場合もある。またケアプランにて把握したり観察を通して検討している。	初回アセスメントの時、本人や家族の希望を記入できるような書式変更を検討している。利用者一人ひとりの思いやケアのチェックを担当職員が記入したり、観察の中から汲み取ったりしながら、本人本位の日常生活となるように検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの書面や情報・生活歴を共有し把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや自主的な役割分担を通じ、残存能力を把握し、活かせるよう努め、日常生活の中に楽しみを見つけれられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的カンファレスにて職員同士で話し合いを行いケアプランに反映させている。</p>	<p>職員は居室担当制で利用者に関わり、観察の様子やケアチェックを記入し、情報を職員間で共有しながら介護計画に活かしている。モニタリングは毎月行い、医師や看護師の意見も参考に職員全員で介護計画の更新をしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録、業務日誌、他諸記録の情報を共有し気付いたことはカンファレスで話し合っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々、変化するニーズに対応するのは難しいが、柔軟な姿勢で支援するよう努力している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の施設を利用したり、ボランティアの協力を得たりしながら、一人ひとりの生活が豊かになるよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフが気付いた点を記録に残し受診時に報告している。毎日の報告と夜間帯の緊急時の相談などの連携をとっている。</p>	<p>島津クリニックの医師が毎月2回訪問診療をしている。また、24時間相談できる体制になっている。歯科医の訪問診療は月1回で全員が治療や口腔ケアを受けている。入居前からのかかりつけ医に家族対応で通う方もいる。</p>	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	訪問看護師への情報提供を行いその都度指示アドバイスを受け周知している。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院、退院した際の情報交換を行い、本人や家族の相談を聞き入れている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化に向けてターミナルの指針はあるが、取り組みとして不十分であるといえる。周知徹底していくことが今後の課題と思っている。	入居時に重要事項と合わせて終末期対応について「看取りに関する指針」を用いて説明している。看取り希望の方とは「看取りに関する同意書」を取り交わしている。新人研修ではDVD教材を使い、教育している。これまでに1件看取りの実績がある。	重度化が進み終末期のケアを実施する場合の対応を強化するために、看取りに関する内部研修に取り組み、体制づくりを進めることを期待します。
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	応急処置法などをやってはいるがまだまだ不慣れでいる気がする。自信があるとはいえない。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	定期的に災害対策訓練を実施している。夜間想定避難訓練を行ったり、非常食の備蓄を行っている。	毎年6月と12月に避難訓練を実施している。前回の訓練は夜間を想定した訓練で、消防署や近隣の方の参加を得て実施した。3月の震災の後、ミニ防災訓練も2回実施している。水や缶詰、日用消耗品などを倉庫に備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。不適切な行動をとらないように心掛けている。	職員は、新人研修で接遇の指導を受け、相手と場面に合わせた言葉遣いや対応ができるように普段から心がけている。不適切な場面があれば職員同士で注意しあえる環境ができている。個人情報書類は、鍵のかかるロッカーに保管している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる力があるので自由に思いや希望を表現している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその時の気持ちを尊重している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容を見守り、ご自身の希望のヘアスタイル等、お手伝いしている。ヘアカットも定期的に行っている。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の自信になる役割の提供を通じ会話も楽しみつつ準備や片付けをしている。	食材業者から食材を購入しているが、利用者の希望に合わせたメニューにするために、時には食材を買いに行き、料理会を開いている。利用者が希望するレストランに2ヶ月に1度くらいの頻度で、外食にも出かけている。食事の準備や片付けをしている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録にのこし、一人ひとりの健康管理の支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との協力や毎食後の口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの状況をみながら声かけを行っている。	排泄チェック表から個人記録に排泄に関する情報を記録し、職員で共有して声かけ誘導をしている。ほとんどの方がトイレ介助が必要であるが、トイレでの自立排泄を支援している。入院中はオムツだった方が日中はリハビリパンツに変更できている事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘記録をみてドクターやナースに相談したり飲食物の工夫をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に対応できるよう努めているが、こちらの都合となることもある。会話などを楽しみながらの入浴を心掛けている。	入浴に関しては週2回が基本で、概ね月8回～9回だが、入りたがらない人には無理強いせず、清拭や足浴にしたり、次の日に入浴したりしている。少ない方でも月5回～6回は入浴している。浴室は清潔で開放的なつくりなので介助もしやすい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないよう投薬時声にだして復唱確認している。また、薬剤師に相談したり、薬についての勉強会を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に適した役割、活動を提供している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそうのは難しいが出来る限り散歩買い物ドライブの機会を多くもてるよう支援している。	遠出の遠足は年1回だが、季節ごとの外出も近くに花見に行ったりしている。外出時に合わせて店での食事会も楽しんでいる。日常的には、天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物に出かけている。散歩が難しい時は、ベランダで日光浴をしたり、外にテーブルを出してお茶を飲んだりして外気に触れる様にしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際個人の財布を持ち自ら支払いする機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援手助けをしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各箇所の清掃に配慮し季節の花が飾ってある。大人の住まい作りに努めている。	清掃は早番の職員が担当し、午前中に行っている。浴室は入浴担当の職員が掃除している。庭には季節の花やゴーヤのつるが伸び実がなっていた。ボランティアの協力で小さな農園を耕し、野菜の収穫を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に合わせて個性ある居室となっている。	居室は各々の使い慣れた家具や仏壇が置かれたり、好きな絵や写真が飾られている。ベッドは介護度や入居前の習慣に合わせて置く位置を変えている。鉢植えの花をベランダに置き世話をしている入居者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室はカーペットになって安全に工夫されている。		

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	有限会社 真全			
事業所名	グループホーム まっとう			
所在地	(〒226-002 神奈川県横浜市緑区長津田町2365番地			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症介護のプロとしての知識・技術を身につける為に、コミュニケーションのひとつバリデーションというケアの方法の勉強に、事業所をあげての取り組みを行っています。認知症高齢者の気持ちを理解し、信頼関係を築くにあたって、非常に有効な方法です。バリデーション協会のセミナー、横浜市の研修会等の外部研修及び内部研修・勉強会等により介護者のレベルアップを図っています。施設は、長津田駅から徒歩圏ですが、緑に囲まれて見晴らしと日当たりの良い、木の温もりが暖かい山の別荘といった雰囲気です。</p>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月30日	評価機関 評価決定日	

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームまっとう
ユニット名	Bユニット

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼（朝の申し送り）の際、理念の唱和をし共有化を図っている。又、フロアー会議や全体会議を通じて、理念の意義を確認し合い、その理念に基づき実践し、努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、ホームで行う行事に地域の方々を招待、ご近所の方々の散歩の途中の挨拶、ボランティアの方々と利用者との交流など日常的に行っている。月に一度つたの葉学園の生徒さん達が来訪され一緒に楽しんでいる。。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして認知症介護に対する理解やコミュニケーションの方法など地域に向けた発信を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営報告や活動報告を3ヶ月に1回行い、状況をお知らせすると共に、意見交換を行い、積極的にサービス向上に役立っている。施設を外部から見て頂き環境等アドバイスを受けている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の入居者の担当者へホームの実情の報告、相談を行い、密に連絡を取り、空き状況等の情報交換をし合っている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>排泄時ベッド横での実施等、ベッド柵つなぎ服等、身体拘束についての話をし、スタッフ同士で声を掛け合い身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ず玄関の施錠だけは行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修に参加出来ていない。日常のケアの中で言葉の暴力なども虐待の一部である等意識を持っての防止に努め見逃されない様に注意をし合っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>自己決定出来なくなった認知高齢者の、守られるべき権利について理解しているが、制度として職員がもっと詳しく知る必要が有る。現在入居者の中に制度を利用している方がいるので良い経験をしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約、改訂時、プラン変更時には、個別のご家族と充分話し合い、理解、納得が得られるよう意識を持って対応している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的な家族会議は勿論、ご家族がお見えになられた際の話や要望、意見を職員は必ず管理者に伝え、サービス向上に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロアー会議、個人面談等で意見提案の機会を設け、職場改善に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に労働基準法の遵守を表明、個々の職員にはサービス残業等がないようにすると共に、助成金を活用して士気の向上に努めている。休憩時間もお互い声を掛け合って規定の時間は休む様にしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・主任から各職員のケアの実際と力量の報告を受け、定期的に施設の巡回を行い確認すると共に、横浜市主催の研修・バリデーション協会主催研修等内外の研修を積極的に行う。認知症の人の知識・ケアの方法には多くに時間をかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	緑区・青葉区のグループホーム協議会に定期的に管理者・職員を参加させると共に、職員同士に交換研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係作りと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやカンファレンスなどで情報の共有化を図り、慣れない環境の中での不安な気持ちを理解し、話を良く聴き、信頼関係を築く事でホームの暮らしが安心になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談の機会を多く持ち、困りごとや要望を良く聞く様にし信頼関係が築かれる様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今何が必要なのか、ご家族の望みは何なのか、医療との連携や他の社会資源の活用も含めて対応出来るよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」という理念の下、人生の先輩として敬いつつも家庭の延長の場と捉え、信頼関係を築く様に努力し、支え合って暮らしていく環境作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を大切にしながら、本人の残された人生が充実したものになる様、ご家族とホームがより良い協力関係を築けるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	古い友人が訪ねて来たり、お墓参りに行ったりする習慣を維持出来る様支援している。いままで食事をしていた懐かしい場所へも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しつつ、一人ひとりが疎外感を持ったり、孤立する事が無い様職員が中に入るなど、対応の工夫をしながら、利用者同士の関わりでの支援を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話相談を受けたり、退去した方のご家族との関係性も大切にしている。退去後元入居者様より電話が有り話しをされた。		
その人らしい暮らしを続ける為のケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	庭いじりの好きな方には、庭・畑での作業をして頂いて楽しまれている。本人の思いや希望を引き出せるよう努めているが、困難場合もある。またケアプランにて把握したり観察を通して検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの書面や情報・生活歴を共有し把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でレクや家事）「楽しかったなー」と思えるようにしている。また無理なく生活を送って頂き日常生活の中で把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的カンファレスにて職員同士で話し合いを行いケアプランに反映させ実践出来るよう努めている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録、業務日誌、他諸記録の情報を共有し気付いたことはカンファレスで話し合っって状況の把握に努めて、ケアプランに反映させ実践出来る様に努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々刻々と変わるニーズに対応出来るよう柔軟な姿勢が大切と考えている。、変化するニーズに対応するのは難しいが、支援するよう努力している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の施設を利用したり、ボランティアの協力を得たりしながら、一人ひとりの力が発揮出来るよう工夫し日常生活が豊かになるよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の同意を得た上で月2回かかりつけ医の往診や訪問看護との連携を図っている。又、夜間等緊急時の連携も取られている。スタッフが気付いた点を記録に残し受診時に報告している。毎日定時報告も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	月に2回の訪問介護を受け、報告相談を行い日常の健康管理の支援を行っている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院先の医師や看護師との情報交換や相談を行い、家族と共にムンテラに参加するなど早期に退院出来る様努力している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化した場合の暮らし方や医療面、又、どの様に終末期を迎えたいか本人や家族の意向を伺い、事前に事業所の方針を誠実に説明した上でその都度話し合いを行っている。		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時の対応など防災訓練の際には初期対応やA E Dの取り扱い方を学ぶ。特に夜勤を行うスタッフは特に実践力を付ける様訓練を行っている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年2回の防災訓練（火災・地震）とミニ訓練を行っていて速やかな避難誘導が実践出来る様にしている。夜間を想定して訓練等を行っている。又、地域運営推進会議の場で地域との防災の協力関係を築く様話し合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続ける為の日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩として敬いの態度で接する。」という理念を管理、職員は毎朝唱和し確認し合い、誇りを傷つけない対応を常に心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる力がある人は自己決定の支援を行い本人を無視するようなケアにならないよう本人の同意を得てから対応するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを優先するよう努めているが、どうしても無理な場合はきちんと説明をし理解が得られるよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな洋服を選べる様支援している。2ヶ月に1度の訪問理美容によりパーマや白髪染めなどの支援を行っている。ご本人の希望に沿ってメイク支援も行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の自信になる役割の提供を通しエプロンを着けてスタッフと協力し合って食事作りや片付けを会話も楽しみつつ行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量を記録に残し栄養状態を把握している。栄養バランスや水分確保に配慮しながら、一人ひとりの健康管理の支援を行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科との協力や毎食後の口腔ケアの支援を行っている。自立の方には声掛けを行い口腔内の清掃と衛生を心掛けている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表の記録を元に一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導の支援を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バランスの良い食事、水分量に配慮し便秘記録をみて体操や散歩を取り入れたりしている。ドクターやナースに相談したり飲食物の工夫をしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの希望に対応できるよう努めている。大方2日～3日の割合で会話等楽しく入浴出来る様に配慮している。入浴困難な時もありタイミングをずらして声掛けをする等工夫している。</p>		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて支援している。浅眠の方への対応や環境作りに配慮して安心して入眠されるよう支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないように職員の声出しを行い確認を取って服薬の支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に適した役割、活動を提供している。今までの生活歴等を活かし役割を持つ事で生き甲斐を感じ、他者への役に立っているという気持ちを持って頂ける様支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気が良く体調が良い時は散歩やドライブに行っている。買い物等も希望に合わせて一緒にでかけている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平時は職員管理だが買い物の際個人の財布を持ち自ら支払う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話での会話が出る様支援手助けをしている。手紙を出せる様支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りが緑に囲まれた高台になっている為、小鳥の音が施設の中にまで聞こえたり風に大きな木が揺れたり季節を感じる環境の中での生活環境。綺麗な空気が大きな窓から入って心地よい空間である。各箇所の清掃に配慮し季節の花が飾ってある。大人の住まい作りに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間でゆったりとしている為、リビングに集まっているが一人で新聞を読んでいる人。隣の人と手を取り合っ て会話を楽しんでいる人と、自由に思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を持ち込みご本人にとって個性ある居心地の良い居室となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無いバリアフリーとなっておりカーペット・手すり・広い廊下。扉付き湯船、と出来るだけいつまでもホームで自立した生活が送れる様安全面も含め工夫されている。		